

時事日記
排閱存稿

特別
14
2090
(28)



本年はよくはなれぬ
 大まかきをぬきしり
 信もそとまわりの世
 了らぬこと

考述懐

○元日 晴 新米定まりにしてみてもはなれぬ
 なるまゝぬが瓜先ふといふやうなり されと昼は
 のころよゆい 手洗水をと湯水は開すわり
 をさきもわらす 月よく澄みとり 宵道遙ふとせん
 小かきんと人の置りりとれと例の物呉れておむ
 向一ッニッ

二年とらや世とまてさきも捨てるはて
 えりやうき致を居種も味もすし
 出殿上松 新年御款
 君代もつをねに口ふり 色もかき
 千代とへぬへ

○ 警備丸被官官談 三十日芝罘特以

○ 鳳凰城附近敵艦 日

○ 日本軍艦閉船の大砲と砲台を振付く 三十日正海軍

○ マンジュール解武裝隊終了 同上

○ 新造五潜航艇運來の計畫 三十日海軍省

○ 駆逐艇八隻新造と進出す 同上

○ 青島清國の敵討と希せず 同上

○ 満洲号陸兵隊の配備

○ 定州穀村(公移) 三月廿八日の衝突

○ 西韓の敵艦

○ 英海軍の遠征と下見とす 三月廿六日

○ 露政府 三十日 西韓の海軍の行動と決す

三月廿甲
関系秋

- 露回米船之船之備力了
- 三月二十三日日本軍艦詔喚と均執了
- ウチミ賦附進子孫と島賊と衝突す
- 滿洲、沿海州、黑龍州ニ移して堡州大に欠す
- マンチウールに處ふの取
- 北京より彼通訳友の白教
- 鳳凰城附近款待 (傳き)
- 禁口附近款待
- 禁口子孫と軍需所と買入
- 款の遠河口同塞計是
- 牛花の戒令
- 三月廿日己未天子在るべし

M

○ 鴨綠江の水とはしむ

十九日
関車砦

○ 敵の在る所河岸に在る 三十一日甚累甚

○ 遠く西の敵情 日

○ 鴨緑江附近の敵情

○ 海軍少将モリス太平洋艦隊に在りて其の任を承る

○ 要塞司令官ウリスモントフ 旅順に在る

○ 高船艇隊の命令

露國太平洋司令官及他戦行動の範圍に於て

或る約束は其のモリスとの關係に於てト布告と爲す

○ 軍艦隊

東ア西バ、砲兵 33 34 35 36 研隊へ

○ キリール太 三月十日 旅順に在る

○ 傷病兵の客地を在るべく定む

M

ハバロフスク 海陸軍 砲兵

ストレーニスク 陸軍 砲兵

ニコリヌク

○ 昔の軍三月七日奉天に在る 牛に戒嚴令の取中

○ 戦時特別兵と約卵

○ 陣中或は戦地ト云ふ 北京及び供ノ隊先

○ 昔の軍中と遠く在るに在る 一日天候甚

三月廿六日
同五報

- 鴨居江女山の露軍
- 善回親王の病之之きて軍所に決別ス
- 朝廷新中宮ノ牛莊戒嚴令と是認す
- 商人の難付財政観 ノーウオエ、ウレリーヤ 二月土曜日より
- 府宣川より返り 二日平壤まで
- タイムス通信員の被服遠見後 二日芝罘まで
- 亦二回開塞後の社説
- 我同軍艦隊の砕け居ます
- 我同軍艦隊海軍は開は開

○清國の公使傷を禁止

○シーリヌイ望礁す 三月二十七日の函館ニ到着

○蒙古兵の軍中家畜と供給す 四月二日天津まで

○清國指色軟乏と自認す 日止後電

、去年三月下旬多量の積雪と米田の漁文せり

、二月中旬より至下旬浦港の社説の記

、西利鉄路、由り軍隊輸送おに糧食と送たり

、一月以降オテッサより軍艦と接せり

○旅順の防務

二月九日付の同報の記

○二月十日の物價制限の報告

○浦港の社説の防務と海軍

○ 款の牛花防備 二日天はり

十ヶ成ルト抑言ス

○ 楚口近況 同上

三十日太は洋川の流船十一隻入港ス

○ ハカキ袂取お水のお破損 互に修復と修ル 同上

○ 亞細おと 阿古橋送 二日停教者

臨送運後ナリ

○ 貝加着迂回法ナリ

全長 250 有里 比内 54 有里 既成

○ 放物のり不詳

ドラガミローロフコ

○ 高知法回多使の宣言

M

支那回

中三と破ルバ之と新字セリと云

○ マンチュール月報子名漢

○ 楚口戒嚴令 全文

○ 逆庚の款概

ドミトリ、トンスコイ

アウロラ

外ニ一処迄也

三月三十一日西現牙弓西方ニ白ケ出ル

○ 馬陸船のハ付

○ 款義州と云々 三日平儀者

○ 莫斯科通信

高の別部云 (財政)

帝回詔書の概観

三月廿七日
岡本報

お晴お坊

赤十字軍運

赤十字の祈禱

○清國の戦時献金物品

○清國の革命運動

○敵軍榮丸乗組員即死

三日芝罘

日知人のみ海軍

○敵軍榮丸の生還者談 日と

○敵軍榮丸の日知人

ノーウキ、エルマーリに拘留

○北神境上の修習 三日京師

○閉塞成績概測

○馬賊跳梁、汽車衝突

艦子官舎の修葺(土城ノ外)

カンスラに汽車衝突

○^亞総おりの小作

○四維馬尾馬外中宣宣言

○款の参謀總長交換

フロロー新使

○高田新團の日本使節親

二月廿六日
ノイ字三、ウレ、中

○亞細亞の返印を、哈魯ハ魯

○西渡ノ儀送カ

○高田の美ノ儀ト、員侍高松海軍

伯林、巴里、アラスカ、シベリア、ソ連、金庫、銀行

特別、新使、同、款、記、

○新使の款送く

二日の事

○亞細亞の返印祝祭

四日上海、友

二日の事

M

○高田の対信要所

口上

高田、同、四ヶ條ノ要所、信務、往、來、

○新造款艦の儀

高田造船所、新造、ツェンタン、号、快、速、艦、と、セ、

○米國通信多抽付

シカゴ、テイリ、リ、ニ、リス、ノ、通、信、資、料、供、給、人、一、人

高田の、カ、コ、抽、付、セ、ル、(中、断、ニ、於、テ)

○タリーニイ、情、況、

ニ、ト、甚、重、ク、

サーハコフ、局、任

○五月二十七日
○雨、降、人、音、派、遣、之、引、揚、く

五月二十八日

○我軍青泥窪を占領す

○敵の作候浩原に来る

○島城の糧倉庫を焼く

五月二十九日

○本日午後三時我軍青泥窪を占領すと分別
報告

M

五月三十日

○旅順港口を二次強行偵察

時事日記

五月三十一日

〇恒岳全額 恒岳部設主任兼人今日迄
費八全額四十四萬三千四百八十一圓十兩七厘

十一月

一日

△ 西江總督李真錢病死 十月三十日

X 露艦暴行事件 十月三十日倫敦來電

波羅的艦隊の一部がシンジール着、漁船回船室

向中円地へ滞り、の答

控知ロジエストラウエロキイはウ#ゴーに留まり

○ 日本の抗派 同上

マドリッド駐劄の日本公使西沢が有艦ヲ不山及艦

係と係給したるヲ什玩派す

X ○ ア總督哈爾家と出資す 同上

○ 大浦達相下関着 十月三十一日

○船暴行事件

十月廿九

英巡洋艦「シカスター」ウヰゴーへ入港、同艦長が提督と会見し即日出港 十月廿九

○クロハトキン

海軍地司を官に任ぜし

○亞細亞

はる遠き航路に十月三十日哈爾濱着

十月十日

高都府の官、即日旅程十五日間

○款方

十月廿八日附 手紙に

十月十三日

海戦 日中の海軍に對し西班牙の國務大臣は他の諸國も亦同様の事を為せしむを希望す

○西班牙の官

手紙に

十月三十日 修政委員 國の休養

○霧船暴行事件

瑞典汽船「ルゲ」号事件の爲西國人より成る委員

○レシーテルヌイの乗込員

十月一日出帆上り向ふ

○仁輔令

霧船暴行事件の勅

○雨河兵衛

霧船暴行事件を裁断す

○生線輸出

一カ余依の増加

○才二階

海軍の先以候令と爲

二日

○霧船暴行事件

昨白ウヰゴーに於て霧船の被害

○同と聞

○油船の暴行

駆逐艦五隻タンジールを去る

十月廿日 修政委員

十月三十日 修政委員 國の休養

三十一日北京發
一日

?

雷保極去 煥仁の勅兵は四地と永陵間の

電線と撤去す

川故未任迄

而以總督の新任 江蘇巡撫端方は两江

總督署理に、江蘇布政使敦倫は 江蘇巡撫

署理を命ぜり

代理

策巡撫周馥两江總督に任せられ 周馥の後

任ニハ コフレンに命ぜり

旅順残存艦艇脱出命令

十月二十一日海軍本部よりステセリに背面の防備

支ふ可うするに至らば残存艦艇は如何にして脱

出せしむべしとの命令を下せり

十月廿一日
旅順消息

書信の密送

数日前芝罘より旅順へ数多

M

傳書鳩を密送せり

旅順の艦隊 の駆逐艦三隻十月三十一日アルジ

ール着、お十一月一日には四隻着の旨

旅順方面作候御突

ハル事件審問委員會組織 派英海軍員

有り

抑留船アッセル号

英海軍艦を護衛せられ

シブロータンを生帆す

旅順攻圍軍の作戦経過

自八月一日を十月二十九日

三日 天長節

一日傍如

也

波羅的艦隊出發 一日ウヰゴールと出發
十黨同子列せしむる所及多し多し
英國艦隊も航洋備
申備古秘久

ジブローター守備兵動員せらる

海峽艦隊命令せしむる所及多し多し

英艦は波羅的艦と接戦と備ちつあり
海峽地中海兩艦隊の間準備するす

友艦隊は地中海に在るしのみし

ウヰゴール艦隊

同上

ウヰゴール艦隊の艦は 我艦ニチャトス
ロフ。ボロケノ。アリヨール。アレクサンドル三世の
四隻に

中米艦隊前電と符合せず

其節若電

海峽艦隊の海峽通過

友艦隊艦隊はタンジールを出発し其内四
隻は石炭船一隻を伴ひ十月三十日東南に向
ジブローターと通過せり

カーハロフ艦隊の長なる

敵方戦報

十月二十九日附
十月三十日附
十月十四日附 同十七日附

十月三十一日
アルジェリス電

二日倫敦電

アルジェリス電

延延艦七アルジェリス電

露國海上捕獲規則

露艦暴行事件

露艦暴行事件
露艦暴行事件
露艦暴行事件

露艦暴行事件
露艦暴行事件
露艦暴行事件

露艦暴行事件

露艦暴行事件

M

二日倫敦電

要聞と概観
戦報 十月三十日の後

四日

波羅的海捕獲事件

波羅的海捕獲事件
波羅的海捕獲事件
波羅的海捕獲事件

波羅的海捕獲事件

亞太平洋の意味

亞太平洋の意味
亞太平洋の意味
亞太平洋の意味

美國外務省公示

十月一日

波羅的艦隊東航の途に、中々の回りの航路
 葉々の先達と、ふべからずとの訓令を以て
 けられり

杜鵑

初給

三十八年五月十六日以後

木とまきす啼いを見いか
たかかしくいか

鳥のほ
今日之
初給

主人の謝す

仙遊の奥底に
ある家清式

山茶

友を束す

物もよふ女
 後櫃たのむにあは杖たすしはははららし
 けし杖とつとお積おしたるお我
 躑躅あ咲あいとあはあ来あいとあ来あか
 これまに何のと力おむい山茶は

M

牡丹

燕子漢

永日

蜀魂

茶山茶や酒は飲をのめ
 牡丹花開りて其乳を喋りて感
 二十月の念をひらけが子漢
 学んや三度ばをる回時
 蜀魂その境の如縁こと

富

介の花

写現

礼水

富子とて一箇の心は根越

介の花や七ささき切きさき後集

写現啼く花をれは秋深

礼水の猿とあふ夜水

擬古留別一首

丈夫乃望是而百濟野雨

今當我行勿泣昔妹

新軒

おろしや人朝齋をいぬとて
大原の命断とていふとや

考見等はちや子もきて
 世は乱れんとす
 年乃中の僻と下りてし
 わら見等しむくすえん
 せんもえん

汝カ父カオロシヤ人斬リシ
 大刀ソコハ汝ニ賜ハラシ君
 カタメニ死ネヤ
汝が父の仇人斬りした刀をあたへ
 人々を多く見る子死ねや
 吾けもかきと
おちい
 におむ

存立り矢も
あはれもさふ
るりもけこや
あはれん
せりもた

~~存立り矢も
あはれもさふ
るりもけこや
あはれん
せりもた~~
あはれもさふ
るりもけこや
あはれん
せりもた
あはれもさふ
るりもけこや
あはれん
せりもた

M

あはれもさふ
るりもけこや
あはれん
せりもた

寄懐出徳友

命あはれは又もあはれんとあはれんと
あはれんとあはれんとあはれんとあはれんと

Blank lined page with a blue border.

家様出御友

命打はみとちひみち

志願をいれ

いのもしとちひみち

大君の御為ととちひみち

昔のちひみち

昔のちひみち

昔のちひみち

九月十四日

○ 戒嚴令の爲親月の興を冷す
九月十三日 (陰曆八月十五日) 快晴 去

~~Sept 14~~

~~Sept 14~~ ~~Sept 14~~

~~Sept 14~~ ~~Sept 14~~

~~Sept 14~~ ~~Sept 14~~

~~Sept 14~~ ~~Sept 14~~

九月廿九

氏友社折原子件

内おたのびておし件

見河原

けりり此より同の國長大守あり、前けりり
おそあめ干渉甚しき事なけりは如何なるか
ど人を免ぶる光榮もみこころ一月申こころ

御事とあつ

おに事よりみり此より後をみればこの國の
入口より冊と結ひて巡遊十名むり之為しあ
る事をもとせしむけいんえとれど我れはははは
あう、取保のお出にと成らしこころと思
ひとれはこころいみれせしむる事樂所を面

M

しこの門の二カヨ行きみこころ、此より後馬道
並河五人をさし、されど入口は冊もかく、尚不
ぞろくしと違入り行く人、おし人あり、馬道
門の中央より出入りの人と左へ分けを
どしとある、其やうすの、既ニ様う後サリヤ

門と入りてみれば巡遊もわふとも電燈の下に三
十名むり一回とせしむる、之とは尻眼子かけ
て樂曲をのり一行く、此處より巡遊の定立
サと折籠りてやれば客付くべくもなし
高くせみ芝居の度ゆふは彼方まで
樂の三平同中、それと見家の中きこれどけ一隊

早くも梅田の通りを十軒へ行き、十軒の通りを
 余りの門をゆき、白くするころ、門の入口に、
 数人の人のおれが、遊んで見ると、その人、
 主として、中々、其の、
 子、
 う、
 出、
 ら、
 の、
 の、
 と、
 ん、

M

隣の芝原のおき、
 の、
 通、
 共、
 と、
 ん、

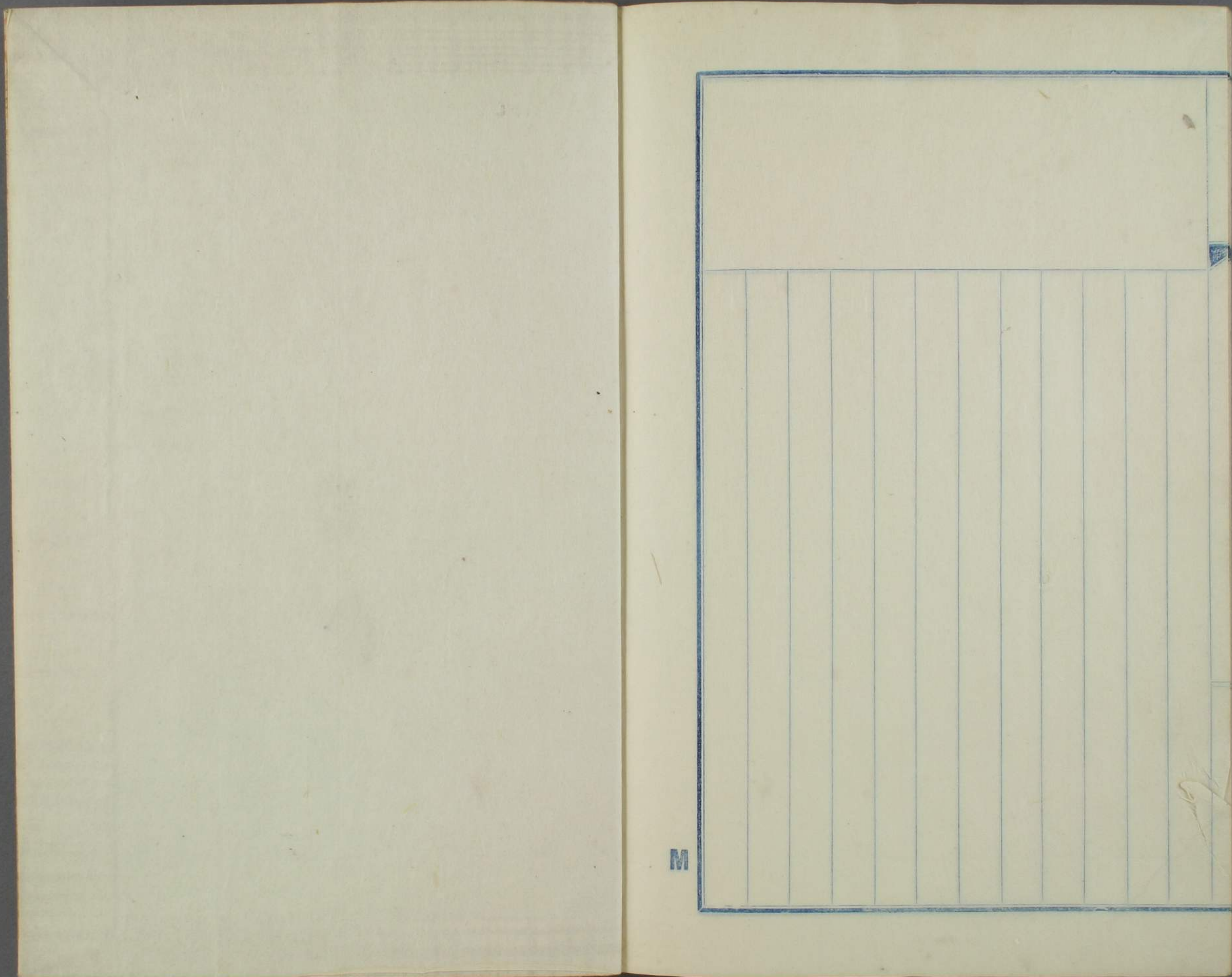
氏友社の音雅

M

以下
20丁
白紙

M

M



M

